

## 綜合的地理的地域決定法 (上)

小牧實繁抄譯

はしがき

本稿は現倫敦大學地理學教授アンステッド博士が一六〇六年英國「地理學雜誌」に發表した「地理的地域決定の一綜合的方法」と題する論文の抄譯的紹介である。本論文は、地域決定法の考察に當つては、その發表後十七年の今日に於いても尙ほ一應は参照せらるべきものであるから、原論文を手に入れる便渺き讀者も多からうと思ひ茲に稍忠實なる抄譯的紹介を試みる次第である。

ハーバートソン教授が「大自然的地域、系統的地理學に於ける一の試み」なる論文を英國地理學協會で讀み、それが一九〇五年三月號の英國「地理學雜誌」に發表せられてから今や既に一〇年以上の年月が経過する。此の論文の發表せられた後になされた討論を見れば、當時に於いては、此の論文に於いて發表せられた主なる

アイディア考へは殆んど實認せられなかつたことが判るし、その際に發表せられた、此の考への批評は、此の考へがその後廣く認められたのとは強い對照をなしてゐる。自然的地域の觀念、即ち自然的地域の各が、その本質的單一性(統一)を宣言する或る特徴を有し、而して地球上の他の地域に密接なる相似を有する如き、自然的地域の觀念が既に相當の價值あるものであり、又凡ての地理學者及び地理學研究家の用意乃至は準備の一部をなさなければならぬことは何等疑ふの餘地がない。

その後、最近數年の間にハーバートソンの示したと著しく同様なる方針乃至は方向に於いて世界を「大自然的地域」に區分せんとする幾つか

の企てがなされたが、此等の計畫を比較して見て吾人は、今日迄採用せられた方法が或る方向には可なり擴張せられても可いが、他の方向に於いては可なり變更せられた方が利益であらうと結論せざるを得なくなつた。

ハーバートソンの始めた、而してその後踏襲せられ來つた如き方法によれば、北米の北、西海岸地域は歐羅巴の北西地域と同一群中に包括せられるといふ如きこととなるのである。如何なる點に於いて此等同一群中に包括せられた地域が同様であり、如何なる點に於いて相異なるのであるかとの問題が起るのである。此等兩地域はその氣候に於いては相似であるが、その地質構造、地表の形狀即ち地形で異り、又、他の地域よりの接近の難易即ち交通關係に於いて、自然的資源に於いて、従つて又最も著しく經濟情態に於いて、人口密度及び政治的重要性等に於いて相異なるのである。然れば、最も廣義の地理的意義に於いては、此等兩地域は相似のものとしてでは

なく、<sup>インライク</sup>不同のものとして考察せられていいのである。加之、かかる方法によれば、西北歐羅巴はニューファウンドランドと、ポトマック(Potomac)附近なるアバラチアンとの間の地域とは別の階級クラスに分類せられることとなる。併しながら、實際は、最も多くの事項に於いて、兩地域は相互に多くの相似の點を有するのである。冬季の氣温は兩地域に於いて實際不同であつて、アメリカの此の地域の北部は氷に鎖されるに對して歐羅巴の此の地域は不凍であるが、夏季の氣温は甚だしくは異ならず、兩地域に同様の農産を可能ならしめる。又、降水量も同様であり、唯アメリカの此の地域に於いては降水がより屢々降雪の形式を採るのを異なる點とするのみであり、それ故、自然植生を比較するに密接なる類似が存するのである。構造的にも兩地域は甚だしく類似し、それ故、起伏の點に於いても、高地と低地との比例の點に於いても、地形の類型の點に於いても、可なり密接なる關係を示し、

且、兩地域ともその北部は比較的新しい氷河作用 (glaciation) の痕跡を有してゐるのである。

兩地域の礦物資源も又比較せられていい。而して、その石炭の大炭層は製造工業の基礎でありこの製造工業は兩地域の可なりの部分の特徴づけ、且、或る部分に於いては、その外觀を變形さへしたのである。廣面積に亘る農業、その比較的北部に於ける海中の魚床イサヅクに於ける漁業、その比較的南部に於ける商業、それに附隨せる必然的なる稠密なる交通網、それ等のものは凡てまた此等兩地域の本質的なる相似の指示徴證とも見なされてよい。最後に、兩地域の位置、即ち互に大西洋の反對側に相對するその位置は、兩者をして相互密接に接觸せしめ、地球の他の部分よりの海上接近を殆んど同様に可能ならしめる一の要因であり、兩地域の特徴の調査に於いては省略され得ない要因である。スコットランドとノヴァ・スコチア (Nova Scotia) との間には眞に著しい正確度に迄比較の併行線を引き得る

のである。「かく觀來る時、ハーバートソン教授の方法には抜くべからざる缺陷の存することが知られるであらう。」

更にハーバートソンの發案による如き方法によれば、印度及び印度支那がオーストラリアの北部と同一の地域に分類せられるやうなことになる。此等の地域は、なる程、相似の自然的條件を有してはゐるが、併しながら、それ等は人文地理に關しては最も著しい對照を示してゐるのである。このことから所謂自然地域 (natural regions) なる語は何を意味するのであるかが問題となる。即ち、單に物理的自然的 (physical) の意味に於ける自然 (natural) に關係することが意圖されるのであるか、若しくは人爲的なる (artificial) 境界ではない。即ち、不自然ではない、自然的なる境界で劃せられた地域を指示することが意圖されてゐるのであるかといふことが問題となる。ハーバートソンは、彼が一九〇五年三月の英國「地理學雜誌」に於いて發表した地圖、世界

を幾つかの自然的地域に區分し、それ等を類型に分類する世界地圖を説明する論文に於いて、「一の自然的地域なるものは、地形・氣候及び植生の一定の單一性を持つべきである……人文條件を地圖示することは、自然的地理的地域を指示するに於いてより少き意義しか有しない。何となれば、人文發達の一の要因(factor)が自然環境の諸多の可能性(possibilities)と同様に考慮の中に入れられなければならないからである……人文的條件の最も複雑にして、且、比較的不安定なるものを表現する政治的區分は自然的地域の如何なる考察からも排除せられなければならない」と言つてゐるのである。

かくの如くにして、一九〇五年のハーバートソンの世界自然的地域地圖は、全然自然的條件の考察の上に基礎を置くのではないが、主として自然的條件の考察の上に基礎を置くのであるといふことが志向されてゐるやうに思はれる。併し、著者、ハーバートソンは自然的地理的地域

なる語を用ひて居り、而して他の所では、彼の系統化せんとする主題(subject matter)をば、全體として考察せらるる地表・地形丈けでなく土地(Land)・水・空氣・植物・動物、及び人間の複合たる一の全體として考察せらるる地球表面の一定の地域(definite areas)、それ等のものが、それ等の特殊の關係に於いて、共に地表の一定の、特徴ある部分を構成すると見做さるる、一定の、特徴ある地域として規定してゐるのである。若しこの後の言辭が地理學の主題を規定するとすれば、此の地圖上に劃せられたが如き地域は自然的地域(physical region)の意味に於ける自然地域(natural region)と呼稱せられてよい。併しながら、それは地理的地域ではない。何となれば、それは地球表面上の生物に就いては少ししかが考慮の中には入れられてゐないからである。此のハーバートソンの地圖は一九一三年に改訂せられてゐるが、それに於いても非自然的(non-physical)の條件に對してはそれ以上の重

さが與へられてゐないのである。尤も、本文の方には、地理學の事實は地球の大有機體(macro-organism)の中に於ける凡ての要素の相互關係(inter relation)に關するものであることを強調してはゐるのであるが。

一九一〇年にはテイラー嬢(Miss. Taylor)と余(アンステッド)との共著、「一般及び地域地理」(General and regional Geography, London 1910)が出で、そこに於いて自然的地域地圖が發表せられ、その圖に於いては、起伏・氣候、及び自然的資源が人間の發展と活動との上に著しい影響を有つものとして考へられてゐるが、併しながら、此處に考慮せられてゐるものも、それは尙ほ單に人間の環境といふものに過ぎないのである。

一九一一年にはドライアー教授の「高等學校地理」(Prof. Dryer, High School Geography, New York 1911)が出で、それに於いても自然的地域地圖が發表せられ、その本文に於いて、

自然的(natural)なる語は人爲的(artificial)なる語との相反に於いて使用せられてゐること、又、種々なる環境は、地理學に於いては、その人文事象との關係から最も大なる重要性を引出すのであるといふこと、が示唆せられてゐるのである。併し、要するに、これも單に環境を取扱ふのみで人文的條件を取扱ふものではないのである。

加之、地圖そのもの丈を検するに、起伏と氣候とが編纂者の胸中に於いて最も重要な考慮の客體をなして居たことが結論せられるのであり、他の要因、例へば、自然的資源の如きはそれ等のものとは獨立の重要性而も同等の重要性を有するものとしてよりも寧ろ前記二つの基本的條件の結果として考慮せられてゐるのであると結論するの外なからう。

著者の論點は、今迄の凡ての場合に於いては區分が、餘りに狹すぎる基礎の上に行はれた、自然的(physical)若しくは所謂自然的(natural)

の地域がかくの如くにして得られるかも知れぬにしても、地域が地理的として見做されるに先だつては、更に廣い見解がとられ、更に廣汎な更に注意深い調査がなされなければならぬ、而して、世界を眞に地理的なる地域に區分する必要があるといふにある。

人間の環境を取扱ふといふ理念から出發することなくして、若し構造の要素に更に大なる重みが與へられるならば、此の地域區分の仕事は更によく基礎づけられるであらうといふ暗示を提起していいであらう。實際、一九〇五年のハーバートソンの論文と共に、世界の「構造的區分」(structural divisions)の地圖が發表せられてゐるのである。それは、明かに、少ししか利用せられなかつた。併しながら、此の地圖は歐羅巴の西北部を北米の西北海岸地方から區別するに役立つ。何となれば、此等兩地域は全然異なる型の構造的區分に屬し、之れに對して、北西歐羅巴は此の點に於いては大西洋の反對側に横

はる北米の地域と殆んど正確に比較せられ得るからである。然らば、地域決定の要因間に於けるより高き位置を構造に許容することの結果はどうであらうか。一方に於いては、地形及び鑛床、それは現實的にもポテンシアルにも一地域の近代的經濟的發達を相當なる程度にまで影響する所の地形及び鑛床に關して、より大なる相似を確かならしめる他面、それは、自然的地域の群の排列を變更するであらう。即ち、北米の太平洋岸地域が舊世界の大西洋岸地域と比較せられる代りに、此の比較的單純なる圖式を、大西洋の兩側間のより密接なる關係を示すことによつて變更することとなるであらう。吾人は、「異なる降雨の地域によつて南北的に(meridional)區分せられた氣温帶として表現せられた氣候的配列」(一九一三年地圖)のみではなく、地球の歴史に於ける最も大なる發達の結果、例へば北米とユーラシアとの場合に於いては大西洋の凹地の周圍に於ける構造的のシンメトリーの

如きものをも考慮の中に入れなければならぬ。

併しながら、構造の要素を含ませたとところでそれ丈では自然的資源及び人類の環境は不充分にしか調査せられない。石炭の鑛床が從來主要なる機械力の動力資源であり工業地域決定に於ける壓倒的優越要因であつたとしても、それは益々多く水力によつて補充せられつゝあり、而して水力の分布は或る地域に於いては構造及び氣候、例へば可なりの降雨量を有する山嶽地域に於けるが如く、構造及び氣候の要素に負ふと雖も、他の地域に於いては、それは氷河作用の結果に負ふ所である。例へば、ニュー・イングランド及び東部カナダの比較的低い地區に於けるが如くである。それ故、氷河作用の事項は新しい要素を導入するのであり、而して此の氷河作用は土壤の條件、深く農業的活動に影響するであらうところの土壤の條件の變化の如き他の効果を有するのである。

更に地域の交通の難易といふものが大なる重

要性を有する要因である。或る場合に於いては交通の難易が地域の發達を決定し、或ひは阻碍し、人文地理に關しては、他の如何なる要因よりも大なる重要性を有するであらう。その上、交通の難易なるものは甚だ複雑なる而も微妙なる事項であつて、それは、構造とか氷河作用とかの如く簡單に地圖の形に表現せられ得ない。又、氣候が降雨とか氣温とかの要素に分析せられた如く、少數の簡單なる要素に分析せられ得ない。それは寧ろその効果乃至は結果によつて評<sup>エバリュエイト</sup>價せらるべきもので、吾人が人文的條件そのものを考察する場合にのみ初めて尊重評<sup>エバリュエイト</sup>價せられるのである。換言すれば、此の人間環境の重要なる局面乃至は方面(Aspect)は孤立せられては考へられ得ない。吾人は自然的若しくは物理的なる條件を越えてその前迄見なければならぬのである。

實際、氣候と雖も、その要素よりも寧ろその効果を考察することによつて最もよく評<sup>エバリュエイト</sup>價せ

られるのである。從來、等溫線 (isotherms)、等雨量線 (isohets) の簡單なる組合はせによつて氣候を表現するためになされた如何なる企圖も満足なるものとは考へられ得ない。年等溫線は餘り價値がない。寧ろ或る特別の季節の平均氣溫を示した等溫線の方がよろしい。併しながら勿論或る特別の問題に關係してその季節が選擇せられなければならぬ。而して一若しくは二の季節を取扱つた地圖は、植物・動物及び人類の多種多様な必要に影響を與へるものとしての氣候の議論には適切ではない。或る問題のためには或る時期の蓄積氣溫 (accumulated temperatures) の方が更に有用であるが、併しながら、更に此の場合に於いても、或る一時期の蓄積氣溫は唯、制限せられた意義を有するに過ぎないことを知らなければならぬ。加之、世界の異なる部分が考察せられる場合には、同一の等溫線も異なる地域に於いては異なる價値をしか有しない。而して、此の等溫線を變異せざ

る不變のものとして示す地圖は確かに人を誤り導くものである。例へば、特殊の方法に於いて或る事情の下に於いて有効である熱量も他の事情の下に於いては同一の効果を有しないことがある。即ち、比較的高緯度地方の夏の比較的長い光明期 (light-period) に於ける或る一定の溫度を以てして植物生活 (plant life) は發達するであらうが、その同じ溫度も比較的 low 緯度の比較的短い光明期に於いては植生を發達せしめないであらう。ハーバートソンの地球上の氣溫地域 (The thermal regions of the Globe, Geographical Journal, Nov. 1912) は、地域の溫度の條件そのものを表現する最良の方法に對する一の吟味として價値あるものではあるが、併しながら、それは、變更なくして世界の凡ての部分に適用せられる決定的なる圖式 (スキーム) であるから、地球の自然的若しくは地理的地域を決定するに於いての助けとして大いに役立つものとは自分には思はれないのである。

同様にして、降雨條件は、現存する如何なる等降雨量線の圖式によつても不充分にしか表現せられてゐない。年等降雨量線は或る價值を有し又、季節等降雨量線も別の長所を有する。併しながら、如何なる體系も普遍的なる意義を有するものではない。温度の場合に於ける如く、降雨の效果は他の事情と共に變化する。或る降雨を示す等降雨量線は植生の或る形態に對する充分なる濕氣が低い温度と共に存在することを指示するかも知れないが、併しながら、より高い温度と共に存在することを示すものではないかも知れない。又、土壤の條件も一定の與へられた降雨の充分さを、大いに、或ひは増加せしめ或ひは減少せしめるであらう。加之、土壤の濕氣(soil-moisture)を長い時期に亘つて保存する方法は、適當なる時期の選擇を、温度の場合に於けるよりも更に一層困難なるものとするであらう

かくの如き困難を解決する方法は、氣候の要素を考察するよりも寧ろその効果を考察するこ

とに存するやうに思はれる。例へば、如何なる植生が、自然のものにしても人爲のものにしても、特殊の地域に存在し得るかを注意することにある。而して、同様に、構造・起伏・交通の難易・氣候、及び自然的資源の、結合的効果を、人間の分布・人間の特性及び人間の活動を觀察することによつて、評價することにあるやうに思はれる。

實際、次のやうなことが一般的提案として提起せられてもよいであらう。即ち、地理的科學の本質的に相關的なる性質(correlative nature)に鑑み、地理的地域を發見する最良の方法は、起伏とか温度とか降雨量とか自然植生とかの或る分析せられたる要因を別々の地圖上に持ち來り、これ等の要素を比較するにあるのではなくそれ等が實際作用するものとして、それ等のものの結合せる効果をとつて考へる、即ち換言すれば、自然的及び人文的條件の現實的の複合コンプレックスをとり、この複合をば密接に相關係する一的全

體として見、此の複合の優越的特徴を種々相異なる部分に於いて觀察する、それ故に、分析的方法によるよりは寧ろ綜合的方法によつて共通の特徴ある地域の決定に到達するにあると言へる。此の調査の後、その地域を記述するため、又、その地域の特異性を説明するため、要因が分析せられていいであらう。

此の複合のあらゆる要因を見ることによつて吾人は、地理學の將來の發展に於いて決定的の位置を占めなければならぬ所の地理的地域を得るであらう。此の地理學の發達の中には、地球の表面を、或る特殊の現象に注意を集中することによつて、特殊の目的のために劃せられた諸地域に區分することが含まれるであらう。否、實際、このことは既に初められて居り、又、次の

如き例を引くことが出来る。ポウエル (Powell) は構造と起伏とを研究して合衆國の自然地理區 (Physiographic regions) を得んとし、最近フェンネマン (Fenneman) は更にそれを正確にした。またケッペン (Köppen) 及びズーパン (Supan) は世界の氣候地域 (Climatic regions) を劃し、シンパー (Schimper) その他は自然植生の地域を劃したのである。またロックスビー (P. M. Roxby) は農業地域の研究を初めたが、此の種の經濟的研究は尙ほ未だ將來に於いてなされなければならぬ情態にある。また、人種的特徴の上に基礎を置いた地域も劃せられ、又、政治的條件による地球の區分方法は寧ろ餘りに優勢すぎると言へる程である。(未完)